

## 過去問題を閲覧されている受講者の皆さまへ

修了考査のご参考にされていることと思います。

『最も適切なもの』『最も不適切なもの』など問題そのものを  
良く熟読して頂くことが肝要です。

各々の試験問題の解答を示していないのは、過去問題の丸暗記を  
しても「合格しない」からです。

当センターでは、予習できるようにテキスト等のデータを  
ダウンロードできるようなシステムを構築しています。

また、講習カリキュラムを受講する中で、しっかり体系的に学べる  
講習会を実施していますのでご安心ください。（勿論努力は必要です）

アスベストばく露防止の最前線で必要な資格です。

受講者の皆さま、頑張ってください。

一般社団法人 環境科学対策センター  
代表理事 脇谷壮太郎

選択肢①、②、③、④は、**石綿に関する法規制**についての記述である。これらのうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

特定粉じん排出等作業の届出対象となるのは全ての特定建築材料の除去作業である。

選択肢

②

建築基準法で増改築時の規制対象となるのは吹付け石綿と石綿含有吹付けロックウールのみである。

選択肢

③

石綿障害予防規則で解体等作業時に事前調査と計画書が必要とされるのは、全ての石綿含有建材についてである。

選択肢

④

廃棄物処理法で特別管理産業廃棄物となる「廃石綿等」は石綿含有吹付け材及び石綿含有断熱材等である。

選択肢①、②、③、④は、**調査者の資格**に関する記述である。このうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

モルタル等で補修されていないことが明らかな電柱の事前調査は調査者資格を有しない者でも調査が可能とされている。

選択肢

②

ブラットホームの上家の解体工事の事前調査を工作物石綿事前調査者が行った。

選択肢

③

エレベーターの解体工事の事前調査を工作物石綿事前調査者が行った。

選択肢

④

小型ボイラーの改修工事の事前調査を建築物石綿含有建材調査者が行った。

次に示す建設材料のうち、**塗料その他の石綿**が使用されているおそれのある材料に**該当しないもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

接着剤

選択肢

②

パテ

選択肢

③

モルタル混和剤

選択肢

④

コンクリート

選択肢①、②、③、④は、**目視調査におけるガスケット・パッキンの取扱い**に関する記述である。このうち**最も不適切なものを1つ**選びなさい。

選択肢

①

フランジを開放したとき、ガスケット等が破断し、接合面に固着しているときは、必要な飛散防止措置、ばく露防止措置を講じて除去する。

選択肢

②

石綿含有ガスケット等は石綿含有率が高く、開放してみないと劣化状況を判断できないため、フランジの開放には十分な注意が必要である。

選択肢

③

フランジ等を開放してガスケット等の型番が確認できても、それで石綿含有の有無を判断できない。

選択肢

④

フランジを開放しないまま、「みなし含有」とするのも有力な選択肢の一つである。

選択肢①、②、③、④は、**特定工作物である炉設備**についての記述である。  
これらのうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

反応槽は、反応塔スカート部の保温材、配管接合部のガスケット、パッキンに石綿が使用されている。

選択肢

②

ガスケット・パッキンなどシール材は、数年ごとの定期修理・点検の際必ず交換されるので、定期修繕の時期を確認することで、石綿含有の無し判断ができる。

選択肢

③

炉内耐火物は、半消耗品であり、数年ごとに張り替えられる。定期修理を請け負っている業者へのヒアリングが石綿含有の有無の判断根拠となりうる場合がある。

選択肢

④

加熱炉では、炉内耐火物、配管接合部のガスケット、パッキンに石綿が使用されている。

選択肢①、②、③、④は、フランジのガスケット・パッキンに関する記述である。このうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

工業プラント等で使用されるガスケット・パッキンには、耐熱性や耐薬品性、締め付け力への許容性が求められるため、石綿含有のものが広く使用された。

選択肢

②

開放するまで石綿含有の有無、劣化状況がわからないので、開放には十分な注意が必要である。

選択肢

③

ガスケット・パッキンには、クリソタイルが主に使われており、その含有率は10%程度である。

選択肢

④

フランジを開放した場合、復旧に際しては新品のガスケットに置き換えるのが必須となっているため、点検・改修の記録を確認することで無含有のものに替えられていることを確認できる。

選択肢①、②、③、④は、過去に実施された**事前調査結果の評価**についての記述である。これらのうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

過去に実施された事前調査に具体的な調査範囲についての記録がない場合は、「石綿含有なし」の判定には直接使えない。

選択肢

②

2006（平成18）年8月31日以前の分析で「石綿含有なし」とされた場合は、再分析が必要となる。

選択肢

③

過去に実施された事前調査で「石綿含有」と判断された資材は、除去された履歴がなければ、「石綿含有」と仮判定し、必ず現地で確認する。

選択肢

④

過去に実施された石綿3種類の分析の結果が「石綿含有なし」の場合は、「石綿含有なし」と判断できる。

位相差・分散顕微鏡法による定性分析について石綿の種類、屈折率、分散色の組み合わせで、**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

クロソドライト、屈折率1.690、分散色が桃色

選択肢

②

アモサイト、屈折率1.680、分散色が桃色

選択肢

③

クリソタイル、屈折率1.650、分散色が赤紫～青

選択肢

④

トレモライト、屈折率1.620、分散色が赤紫

選択肢①、②、③、④は、**電気事業法に定める電気工作物**に関する記述である。このうち**最も不適切なものを1つ**選びなさい。

選択肢

①

電気工作物には、事業用電気工作物と一般用電気工作物がある。

選択肢

②

石綿の工作物告示で定める「特定工作物」は、電気事業者の発電所等の事業用電気工作物のみが該当する。

選択肢

③

一般用電気工作物は、低圧（600V以下）で受電する住宅、小規模事業所の工作物である。

選択肢

④

事業用電気工作物には、電気事業者の発電所等の事業用電気工作物と自家用電気工作物がある。

選択肢①、②、③、④は、**石綿含有保温材**についての記述である。これらのうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

石綿含有保温材は、主成分により、石綿保温材、けいそう土保温材、パーライト保温材、けい酸カルシウム保温材、水練り保温材の5種類に大別される。

選択肢

②

石綿保温材は、解綿した石綿に接着剤を加えて成形したものであり、板状、筒状、ふとん状のものがあ、石綿含有率は1～50%とされる。

選択肢

③

水練り保温材は、塩基性炭酸マグネシウムと石綿繊維を配合したもので石綿含有率は、8%以上のもの等があり、成形保温材の目地部分あるいは複雑な施工面の保温、又は外装を兼ねた保温材に使用された。

選択肢

④

けい酸カルシウム保温材は、けいそう土等のけい酸質原料と石灰質原料を主材として、オートクレーブ処理したものに石綿等の補強繊維を加えたものであり、石綿含有率は1～25%とされる。

安衛法関連法令の変遷に関する記述として、最も不適切なものを1つ選びなさい。

選択肢

①

1975（昭和50）年からは、石綿含有率5重量%を超える吹付け材の吹付け作業が原則禁止されている。

選択肢

②

2004（平成16）年からは、石綿障害予防規則が制定・施行され、石綿含有吹付け材の吹付け作業が完全に禁止されている。

選択肢

③

1995（平成7）年からは、アモサイト・クロシドライトの製造、使用が禁止されている。

選択肢

④

2006（平成18）年からは、石綿含有率0.1重量%を超える製品（代替品のない一部の物を除く）の製造、使用が禁止されている。

選択肢①、②、③、④は、**試料採取箇所の選定**についての記述である。これらのうち**最も適切なものを1つ**選びなさい。

選択肢

①

施工記録及び目視調査から3部屋にわたって同じ床材が使用されていると判断できたので、各部屋から1試料ずつ採取し、1つの検体とした。

選択肢

②

吹付け材の採取について、採取が行いやすいので吹付け材が浮いている箇所から採取した。

選択肢

③

ホテルの客室すべてが、設計図書に同じ仕上げ材が表示されていたので、ひとつの部屋だけで3試料を採取し、1検体のみの分析とした。

選択肢

④

作業性のみを考慮し、部屋に入ってすぐの電気スイッチ近辺から採取した。

石綿含有建材には、吹付け材、断熱材、耐火被覆材、保温材、成形板、仕上塗材などがある。昭和50年に施工された建物において、これらの材料から**試料を採取する際の記述**として、選択肢①～④のうち、最も**不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

鉄骨に吹き付けられている場合の試料採取は吹付け層から鉄骨の表面まで試料を採取した。

選択肢

②

保温材の試料採取は、保温材と保温材の繋ぎ目を貫通して試料を採取した。

選択肢

③

解体を目的とした場合には、外壁については、下地調整塗材および仕上塗材が調査対象となる。

選択肢

④

煙道側の円筒管の裏側に断熱材があったので、円筒管と断熱材と一緒に試料採取した。

選択肢①、②、③、④は、工作物のガスケットの分析のための**試料採取（サンプリング）**についての記述である。このうち**最も不適切なものを1つ**選りなさい。

選択肢

①

同製品のガスケットについて、施工時期、改修時期等から同一資材の範囲を想定する。

選択肢

②

劣化して固着したガスケットを削り落してサンプリングする場合は、湿潤化し、場合によっては集じんや部分隔離などの飛散防止措置を講じることが必要になる。

選択肢

③

同一資材と判断した範囲内で1か所から試料を採取し、1検体として分析する。

選択肢

④

フランジを開放する作業は危険を伴うので、施設管理者側に開放作業をお願いするか、または立ち合いのもと行うことが必要である。

選択肢①、②、③、④は、**エレベーター**に関する記述である。このうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

建築物又は工作物に設置されている又は設置されていたエレベーターは、特定工作物ではなく、「**その他工作物**」とされている。

選択肢

②

建築物に設置されたエレベーターの昇降路の囲い（シャフト）は建築物に、観光用エレベーターの昇降路の囲いは「**特定工作物**」に該当する。

選択肢

③

「**その他工作物**」であっても、請負金額が100万円以上（税込み）の解体・改修工事の場合は、事前調査結果を知事等に報告しなければならない。

選択肢

④

エレベーターには、巻き上げ機のブレーキパッド、かごや扉等の防振塗料などに石綿が使用されていた。

選択肢①、②、③、④は、**石綿の種類**についての記述である。これらのうち**最も適切なものを1つ**選びなさい。

選択肢

①

石綿の種類のうち、クリソタイルは青色で、有害性が最も高く、アモサイトは白色で、石綿のうち最も多く建材に使用され、クロシドライトは灰褐色で、吹付け材、保温材に使用されてきた。

選択肢

②

石綿の種類のうち、アモサイトは青色で、有害性が最も高く、クリソタイルは白色で、石綿のうち最も多く建材に使用され、クロシドライトは灰褐色で、吹付け材、保温材に使用されてきた。

選択肢

③

石綿の種類のうち、クロシドライトは青色で、有害性が最も高く、クリソタイルは白色で、石綿のうち最も多く建材に使用され、アモサイトは灰褐色で、吹付け材、保温材に使用されてきた。

選択肢

④

石綿の種類のうち、クロシドライトは青色で、発じん性が最も高く、アモサイトは白色で、有害性が最も高く、クリソタイルは灰褐色で、石綿のうち最も多く建材に使用されており、吹付け材、保温材に使用されてきた。

選択肢①、②、③、④は、**分析試料採取**における防じんマスクについての記述である。これらのうち**最も不適切なもの**を1つ選びなさい。

選択肢

①

フィルターはRS 2 又はRL 2 のものを使用する。

選択肢

②

面体、フィルターとも型式検定合格品を使用する。

選択肢

③

フィットチェックは、マスク装着の都度実施しなければならない。

選択肢

④

視覚を確保し、会話できるように、伝声器付きの半面形マスクが望ましい。

選択肢①、②、③、④は、**特定工作物の事前調査**に関する記述である（工作物石綿事前調査者の法令施行後を想定）。これらのうち**最も不適切なものを1つ**選びなさい。

選択肢

①

請負金額（税込み）が200万円の焼却設備の改修工事の事前調査を、工作物石綿事前調査者が行い、元請業者が事前調査結果を行政に報告した。

選択肢

②

請負金額（税込み）80万円の遮音壁の取替工事の事前調査を、工作物石綿事前調査者が行った。

選択肢

③

請負金額（税込み）150万円の遮音壁の取替工事の事前調査を、一般建築物石綿含有建材調査者が行い、元請業者が事前調査結果を行政に報告した。

選択肢

④

請負金額（税込み）が80万円のボイラーの改修工事の事前調査を、調査者資格を有しない人が行った。

選択肢①、②、③、④は、石綿が使用されていたおそれがあると言われる塗料に関する記述である。このうち最も不適切なものを1つ選びなさい。

選択肢

①

橋梁等の塗装の場合には、構造物に塗料名、メーカー等が表示されていることがある。

選択肢

②

海洋構造物等に使われた重防食用の厚塗りの塗装などにダレ止めを目的に石綿を使用することがある。

選択肢

③

OP、VP、EPと呼ばれる薄塗の建築用塗料は、つや出し等の仕上がりをよくする目的で石綿を使用することがある。

選択肢

④

塗料については、塗料メーカー、塗料名と施工時期から石綿含有の有無が判断できる場合が多い。

ア、イ、ウ、エは、**石綿含有建材調査者の役割と中立性**についての記述である。これらの記述が適切(○)であるか、不適切(×)であるかを判断しなさい。選択肢①、②、③、④より**正しい組合せ**を1つ選びなさい。

記述

ア

調査者は、正確な調査を心掛け、未熟な判断や勝手な考えなどによる調査結果が引き起こすリスクの大きさを認識しておくべきである。

イ

建築物に石綿が存在するために発生する環境リスクは、建築物の所有者などが負うことになる。

ウ

調査者は、建築物に使用されている建材に対して調査し、その建築物における石綿の使用の有無を判定することを担う。

エ

調査者は、石綿に関する知識だけでなく、建築物への石綿対策工法にも精通しておくことが望まれる。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	○	○	○	○
②	○	×	×	○
③	×	○	○	○
④	×	×	○	○